



より良い医療を  
地域の人々に

社会医療法人  
岡村一心堂病院

岡山市東区西大寺南 2-1-7

Tel 086-942-9900

URL : <http://www.iss shin.or.jp/>

E-mail : [info@iss shin.or.jp](mailto:info@iss shin.or.jp)

## 内科（毎週火曜 午後2時～6時）橋本浩三医師 着任のご挨拶

内科医 橋本 浩三（内科学会名誉会員、内分泌学会名誉会員）

今年4月より毎週火曜午後（14時～18時）、内科診療を担当することになりました。

高知で医学部の教授や病院長を25年近く務め、昨年末に出身地である岡山へ帰ってきました。当院では、私の専門である内分泌・代謝疾患（ホルモン・代謝内科）を中心に内科全般の診療を担当しています。

内分泌・代謝疾患はホルモンの分泌異常や代謝の異常によって起きる病気で、主に次のようなものがあります。

### ・ 糖尿病

代謝疾患で最も多い病気です。糖尿病は糖の代謝を調節しているインスリンというホルモンの分泌が悪くなることやその働きが不十分になることが原因で、血液中の糖が多くなりすぎる病気です。喉が乾き、尿の回数が多くなり、尿に糖が多く排泄されることから、糖尿病と呼ばれています。病気が進行すると手足が痺れたり、腎臓の機能が低下して腎不全になったり、目の網膜が侵されて失明したりします。また、動脈硬化が進み、心筋梗塞や脳卒中が起きやすくなります。進行しないよう初期からの治療が大切です。

### ・ 甲状腺機能亢進症 甲状腺機能低下症

内分泌疾患で多い病気は、甲状腺ホルモンが多く分泌される甲状腺機能亢進症（バセドウ病など）や、その分泌が低下する甲状腺機能低下症（橋本病など）があります。どちらも多くの場合、甲状腺が腫れてきます。急に痩せた、汗をよくかく、動悸がする、手が震える、イライラするといった場合は甲状腺機能亢進症、体がだるい、便秘が酷くなった、寒さが堪える、記憶力が悪くなったという場合は甲状腺機能低下症が疑われます。

### ・ 副腎ホルモン分泌の異常

副腎のホルモン分泌が増加すると、薬でのコントロールが難しい高血圧（内分泌性高血圧症）となり、糖尿病や肥満にもなりやすくなります。副腎のホルモン分泌が減少すると、低血圧や低血糖となり、疲れやすく、食欲が低下します（副腎機能低下症）。

### ・ 脳下垂体ホルモン分泌の異常

脳下垂体ホルモンのうち、成長ホルモンの分泌が過剰になると、手や足が大きくなって靴があわなくなったり、歯並びが悪くなり、顔つきがいかつくなったり、声が低くなったりします（先端巨大症）。成長ホルモンの分泌が低下すると、小児では背が伸びなくなり（低身長症）、大人では、体脂肪が増え、筋力低下や骨粗しょう症が起こり、体がだるくなります。また、尿量を調節している抗利尿ホルモンが低下すると、尿の回数や量が大変多くなり、喉が乾いて水をたくさん飲むようになります（尿崩症）。

現在ではこれらの病気は、それぞれの原因になっているホルモンを血液で測定することによって正確に診断できます。診断がつけば治療が可能になりますので、上記のような症状があれば早めに、また気楽に受診してください。

